

平成 30 年度
全国学力・学習状況調査の
結果について



平成 30 年 12 月

海老名市立有鹿小学校

目次

全国学力・学習状況調査について	P. 1
「国語に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 2
「算数に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 3
「理科に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 4
「児童質問紙の結果より」と「今後の具体的な取組」	P. 5
ご家庭で取り組んでいただきたいこと	P. 6



資料 学習・生活習慣と学力との関係

文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

次のような児童・生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。
(教科に関する調査、児童・生徒質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数・数学に対する関心・意欲・態度が高い

【学校生活】

- ・学級みんなで協力して何かをやり遂げうれしかったことがある
- ・先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う

【基本的な生活習慣】

- ・朝食を毎日食べる
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る

【社会に対する興味・関心】

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある
- ・新聞を読んでいる
- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る事に関心がある

【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で計画を立てて学習をする
- ・学校の宿題、授業の予習・復習をする
- ・読書が好き、読書時間が長い、学校や地域の図書館に行く頻度が多い

【家庭でのコミュニケーション】

- ・家の人と学校での出来事について話をする
- ・家からは、授業参観や運動会などの学校行事に来る

【自尊感情・規範意識】

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ・学校のきまり、規則を守っている
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思う

【基本的な生活習慣】

- ・携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が短い

全国学力・学習状況調査について

全国学力・学習状況調査は、平成19年度に始まった全国一斉の調査です。平成22～24年度は抽出調査(平成23年度は震災の関係で実施を中止)でしたが平成25年度から再び、全国すべての小中学校が対象となりました

◆ 調査の目的

- (1) 児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

◆ 調査の対象

- 国・公・私立学校の以下の学年、原則として全児童生徒
- ・ 小学校第6学年
 - ・ 中学校第3学年

◆ 調査内容

(1) 教科に関する調査

【小学校】

- 国語A・算数A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・算数B (主として「活用」に関する問題)
- 理科 (主として「知識」「活用」に関する問題)

【中学校】

- 国語A・数学A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・数学B (主として「活用」に関する問題)
- 理科 (主として「知識」「活用」に関する問題)

「主として『知識』に関する問題」とは？

これからの学習や生活をしていく上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力を調査する問題

「主として『活用』に関する問題」とは？

身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力を調査する問題

(2) 児童生徒に対する質問紙調査

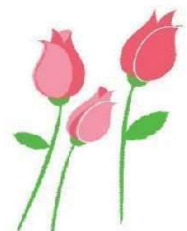
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問

(3) 学校に対する質問紙調査

指導方法や取組、人的・物的な教育条件の整備の状況等

◆ 調査実施日

平成30年4月17日(火)



国語に関する調査結果

国語 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 「話す・聞く能力」が優れています。相手や目的に応じ、自分が伝えたいことを、事例を挙げながら筋道を立てて話すことについて、よく理解できています。
- 「書く能力」が優れています。自分の想像したことを物語に表現するために、文章全体の構成の効果を考えることができます。
- 日常生活で使われている慣用句の意味を理解して使うことができます。

《努力を要する所》

- 「読む能力」がもう少しです。情景描写を基に、登場人物の心情を捉えることに課題が見られます。
- 「言語についての知識・理解」がもう少しです。相手や場面に応じて適切に敬語を使うことや、学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことに課題が見られます。

国語 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 話し合いの参加者として質問の意図を捉えることや、計画的に話し合うための司会の役割について捉えることがよくできています。
- 推薦するためには、他のものと比較して書くことで、よさが伝わることを理解できています。
- 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読むことは、比較的よくできています。

《努力を要する所》

- 話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめることに課題が見られます。
- 目的や意図に応じて、文章の内容の中心を明確にして詳しく書くことや、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことに課題が見られます。

これまでの取組から

- 自分の伝えたいことや感じたことを、正しく相手に伝えるための文の構成や使うべき言葉について、指導の充実を図ってきました。
- 情報を整理し、まとめる方法について、重点的に指導してきました。
- 漢字の読み書きが正しくできるように、また、同音異義語に注意するなど、漢字のもつ意味を考えて使う習慣が身に付くように指導してきました。

今後の具体的な取組について

- 自分の考えや気持ちを相手に的確に伝えられるように、文章の種類や特徴を踏まえた上で、文章全体の構成とその効果を考え表現する学習を進めていきます。
- 地域や保護者と関わる学校行事等をはじめ、生活の中の様々な場面で敬語を使うことに慣れさせるなど、場に応じた適切な言葉遣いで話せるようにする指導の充実を図っていきます。
- 漢字の確実な習得を目指すために、漢字の意味やその漢字を使った熟語について調べたり、文や文章の中で意識して使ったりするなど、指導の一層の充実を図っていきます。

算数に関する調査結果

算数 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 1に当たる大きさを求める問題場面における数量の関係を理解して数直線上に表す能力である、数量についての技能に優れています。
- 十進位取り記数法で表された数の大小についての理解がとても優れています。
3桁の整数どうしの大きさを比べ、十の位に入る適切な数字を書くことがよくできていました。

《努力を要する所》

- 「折れ線グラフから変化の特徴を読み取ること」がもう少しです。
昨年と同様の問題である、「示された事柄が両方当てはまるグラフを選ぶ」問題では、時間の経過に伴う気温の変化の様子に関する事柄の読み取りはできていたが、同時刻の気温の違いに関する読み取りに課題が見られます。

算数 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 示された情報を解釈して条件に合う時間を求めるための、数学的に思考する力にとっても優れています。
- 「7mの輪飾りをつくるためには折り紙が100枚あれば足りる理由を、示された数量を関連付け根拠を明確にして記述する力」が、比較的優れていました。

《努力を要する所》

- 「九九の表について、示された考えを解釈し、条件を変更して数量の関係を考察し、分配法則の式に表現すること」がもう少しです。
- 「九九の表について、示された考えを解釈し、条件を変更して考察した数量の関係を、表現方法を適用して記述すること」に課題が見られません。

これまでの取組から

- 基礎的・基本的な計算技能の確実な定着を図るために、朝自習の時間を活用した「わくわく算数タイム」や授業時間にきめ細かい指導を行ってきました。
- 自分で考え、説明したり話し合ったりする活動や振り返り活動を重点的に行い、算数を学ぶ「楽しさ」とともに、問題が解けたこと、自分の考えを説明できたことや発表できたこと等の「喜び」を実感させてきました。

今後の具体的な取組について

- メモの情報と棒グラフを組み合わせたグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを言葉や数を用いて記述する問題や折り紙の枚数が100枚あれば足りる理由を、枚数、本数、個数などの数量を関連付け、根拠を明確にして式や言葉を用いて記述する問題で無解答が目立ちました。
言葉の意味や題意を正確に捉えるようにするとともに、より正確に自分の考えを記述する力を伸ばせるよう努めていきます。
また、学習を振り返る活動に力を入れて、自分自身を客観的に捉える経験を増やし、知識・技能の定着を図ることや算数科への関心を高めていくことを目指して取り組んでいきます。



理科に関する調査結果

《優れている所》

- 野鳥のひなの観察の問題では、観察者が自身の安全に留意し、親鳥の子育ての邪魔にならないようにするといった生物を愛護する態度をもって、観察できる方法を判断することがよくできています。
- 上流側の天気と下流側の川の水位の問題では、上流側で雨が降った後、時間が経ってから下流側の川の水位は高くなることを理解したうえで、上流と下流の川の水位の変化を分析し、考察することがよくできています。
- ろ過の操作の問題では、液体を正しくろ過するために、ろ紙やガラス棒を使用することの意味を理解し、ろ過の適切な操作を判断することがよくできています。

《努力を要する所》

- 人の腕のつくりの問題では、体の各部の手や足のよう曲がるところと曲がらないところについての科学的な言葉や概念の理解に課題が見られます。
- 流れる水の働きの問題では、流れる水の地面を削ったり、土や石を運んだり、流されてきた土や石を積もらせたりする働きについて考察することに課題が見られます。
- 電流の向きと回路のつなぎ方の問題では、モーターの回転を逆にするために回路のつなぎ方を変えることや、乾電池の数を増やすことで豆電球の明るさやモーターの回り方が変わることを、実際の回路に当てはめて適用することに課題が見られます。

これまでの取組から

- 基本となる学習内容の指導を徹底するとともに、身の回りで見られる自然や日常生活の事物・現象について、これまでに学習した内容を適用して考えたり話し合ったりするなどの指導を行ってきました。
- 実感を伴って理解できるよう、実験や観察する場面を多く設定するなど、学習活動を工夫してきました。

今後の具体的な取組について

- 日頃から、身の回りで見られる自然や日常生活の事物・現象について、これまで学習した内容を適用して考えられるように指導の充実を図ります。
- 実感を伴って理解できるよう、実験や観察する場面をより多く設定する等、引き続き指導の工夫・改善を図っていきます。
- 電気回路のつなぎ方や使い方を理解し、実際の場面で適用できるように、操作や実験をする活動をより多く設定する等、指導の充実を図っていきます。



児童質問紙の結果より

学習について

《よかった所》

- 「家で学校の宿題をしていますか」に対して、「している」と回答した児童は 92.6%で、全国平均より約 5 ポイント高いです。宿題を行う習慣が身に付いてきています。
- 「学校の授業時間以外に、普段 1 日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか」に対して、「30 分以上読んでいる」と回答した児童は 56.4%で、全国平均より約 15 ポイント高いです。

《課題と思われる所》

- 「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」に対して「している」「どちらかといえばしている」という回答は 58.5%で、全国平均より約 9 ポイント低いです。与えられた課題だけでなく、自分で見通しをもって取り組めるようにする必要があります。
- 「地域や社会をよりよくするために何をすべきかを考えることがありますか」に対して、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童は 45.8%で、全国平均より約 4 ポイント低いです。

生活について

《よかった所》

- 「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、「当てはまる」と回答した児童は 87.3%で、全国平均より 3 ポイント高いです。学校生活において認め合える場面が多く、自己肯定感が高まってきています。
- 「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか」に対して「よく見る」「時々見る」と回答した児童は 89.4%で、全国平均より約 3 ポイント高いです。社会の出来事や変化に興味・関心が高く、様々な手段により情報を得ることができています。

《課題と思われる所》

- 「地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がありますか」に対して「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童は 54.3%で、全国より約 10 ポイント低いです。児童が地域の出来事について、身近に感じられるようにする必要があります。

これまでの取組から

- 「学年×10分」を目安に家庭学習を毎日の習慣として行っている児童が増えてきています。家庭の理解・協力を得ながら指導してきた成果です。
- 朝読書を週 2 回実施しています。学年・学級文庫を充実し、学期ごとに本を入れ替える等の取り組みも行っています。教科学習等において、図書館や学校図書館支援員を活用した調べ学習等も行っており、全体的に読書活動が充実してきています。

今後の具体的な取組について

- 自分で課題を持ち、見通しをもって取り組める児童がまだ少ないです。見通しをもって、計画的に取り組んだり、取り組んだことを振り返ったりする学習の一層の充実を図っていきます。
- 学校応援団と連携し、学校と地域が積極的に交流を図るなど、児童が地域の一員としての意識を高められるようにしていく必要があります。



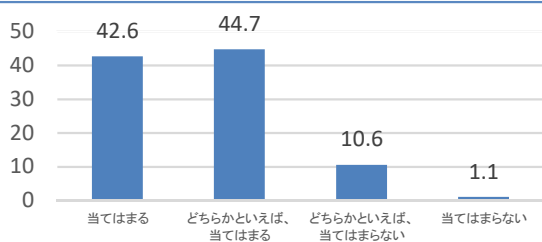
ご家庭で取り組んでいただきたいこと

平成30年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい6つの項目」をまとめました。ご家庭でぜひ話題にしていきたいと思えます。

1 自信や自己肯定感を深めていきましょう。

様々な体験を通して学んだことを生かしながら、自分らしさを追求しましょう。

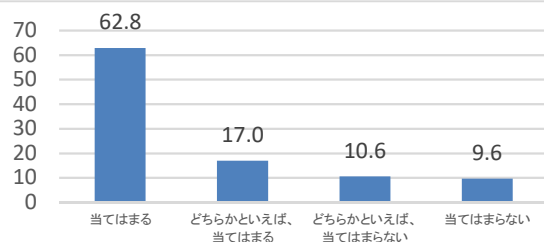
自分にはよいところがあると思いますか



2 自分の良さや可能性を実感し、目標をもって取り組みましょう。

夢や希望を持ち、それを実現したいという思いは、いろいろなことを頑張ろうという意欲につながります。

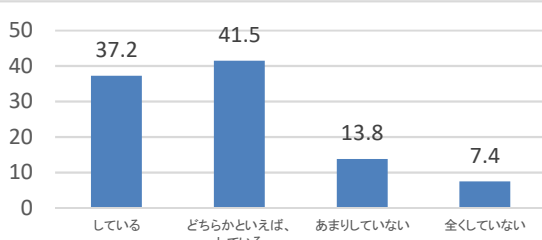
将来の夢や目標を持っていますか



3 自分に合った、規則正しい生活リズムをつくりましょう。

スッキリ目覚め、活発に行動できるよう、前日に早く寝て睡眠時間を確保することが大切です。

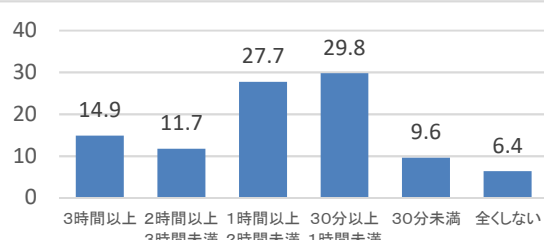
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



4 自分で計画を立てて、学習に取り組みましょう。

「学年×10分」を目安に、学校の授業以外にも学習に向かう時間を確保し毎日の学習を習慣化しましょう。

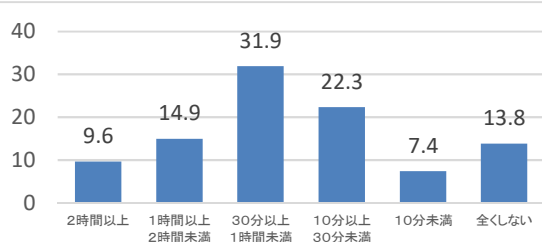
普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか



5 いろいろな本をたくさん読みましょう。

読書は、たくさんの知識を身に付けるとともに、感性を豊かにします。読書の習慣を付けましょう。

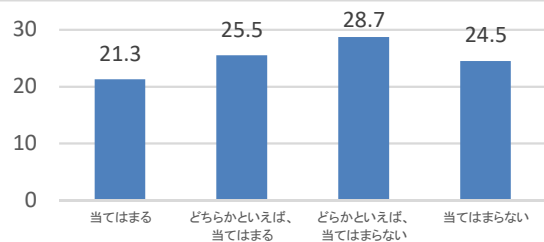
普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか



6 地域の行事に積極的に参加しましょう。

地域の行事に参加することで、地域の方と触れ合い、交流の輪を広げましょう。

今住んでいる地域の行事に参加していますか



海老名市立有鹿小学校

